



## 会 議 録

八幡市教育委員会

開催日時	令和8年1月21日（水曜日） 午後3時00分～午後4時00分	
場所	本庁舎5階 会議室5-2	
出席委員名	川 中 尚（教育長） 橋 本 陽 生（職務代理者） 佐 野 恵理子	八頭司 めぐみ 狩 野 理恵子
委員を除く出席者の職・氏名	部 長 久 保 豪 次 長 渡 邊 晋 こども未来課長 高 橋 洋 貴 子育て支援課長 成 田 孝 一 子育て支援課総括園長 矢 田 真 弓 学校教育課長 家 村 聡 一 学校教育課主幹 市 村 誠	文化財課長 田 制 亜紀子 教育支援センター所長 安 達 里 香 図書館長 小 坂 富美子 南ヶ丘教育集会所館長 山 中 友 順 南ヶ丘教育集会所主幹 梅 野 尚 史

## 1. 開 会

## 2. 報 告 事 項

(1) 令和8年八幡市二十歳のつどいの参加状況について

(こども未来課) ※資料1

## 3. 議 題（協議事項）

(1) 八幡市の教育行政について

## 4. その他

・園、学校訪問について

## 5. 配付資料

- ・12月分議事録（写し）
- ・令和7年度卒業式・卒園式出席者（案）
- ・令和8年度入学式・入園式出席者（案）

## 6. 閉 会

※次回定例教育委員会

日時：2月18日（水）午後3時から

場所：本庁舎5階 会議室5-2

※園、学校訪問先

やわたこども園 (10:00)

男山第三中学校 (11:30)



	内 容
[ 教 育 長 ]	<p>1. 開 会  それでは、令和8年1月度の定例教育委員会を開催いたします。</p> <p>2. 報 告 事 項  2. 報告事項をお願いします。  (1) 令和8年八幡市二十歳のつどいの参加状況について、事務局より報告願います。こども未来課。</p>
[ 高 橋 課 長 ]	<p>1月12日に開催いたしました令和8年八幡市二十歳のつどいの参加状況についてご報告申し上げます。資料1をご覧ください。</p> <p>今年の市内の二十歳のつどいの対象者は令和7年11月1日時点での人数になりますが、724人で、当日の参加者は市外からの参加者20人を含む521人で行われました。</p> <p>今年の二十歳のつどいも、第一部の式典と第二部の実行委員主催の交流会を開催いたしました。大きな混乱もなく、無事に終えることができました。</p> <p>委員の皆様方におかれましては、お忙しい中、ご出席を賜りありがとうございました。</p> <p>なお、当日二十歳のつどいの対象者に、松花堂庭園の入園料を無料とさせていただいたところ、対象者34人、同伴者が52人、合計86人の利用がございました。</p>
[ 教 育 長 ]	<p>ただいまの報告事項について、委員よりご質問等はございませんか。</p>
[ 狩 野 委 員 ]	<p>今年の二十歳のつどいは、市長の挨拶から始まり、二十歳の方の宣誓など、すごく温かい会だったなと思います。二十歳のつどいの参加者に、幼少期から気にかけていた方が来てくれていました。来てくれるのか心配だったんですが、周りの友達が支えてくれていて、そうやってお互いに助け合う形で育ってくれていて、感動させていただきました。</p> <p>小ホールの方で、小学校・中学校の恩師の先生との交流会がありますが、幼稚園の先生も入れてもらえたら嬉しいなと思います。誘われたので覗きに行っただけなんですけれども、私は当時、男山第二中学校校区だったんですけど、すごくたくさんの卒園生が来てくれていました。初めて子どもたちを担当したという先生が現職でいらっしゃるの、成長した姿をその先生にも見てもらうことができればよかったなと思いました。お声がけをいただけたらさらに盛り上がるかと思っておりますので、ご検討いただければと思います。</p>
[ 佐 野 委 員 ]	<p>何回か参加させていただいていますが、ほっこりした二十歳のつどいを味わいました。最初の市長の挨拶で、大人は見てるよというお声がけをされていましたが、その言葉はすごく後押しになってるんじゃないかと思っております。また、大人もちゃんとしなければならないというメッセージともとれますが、二十歳の方々は真剣に聞いていて、時代時代でみんなの姿勢や成長も変わってきているんだなと感じました。いろんな学校を回りながら、次代の子どもの成長の仕方も違う見方で見ていかなければならないなと感じました。</p>
[ 橋 本 委 員 ]	<p>私も長年参加させていただいたものとして、時代の変化や雰囲気の変化というのを感じられました。今回本当に落ち着いて、ほんのりした二十歳のつどいを挙げていただけたなと思います。後でお答えいただくことができれば二部の参加者数を教えていただければと思います。</p> <p>市長の挨拶ですが、自分の言葉でストレートに、いろんなところで発信されている。今回も同じように、非常に聞きやすいというのが素直な形で、ストレートに参加者に入ったのではないかなと思います。大人が見ているよと、期待しているよと、期待している以上はあなた方もそれに答える義務があるよと、私もそう思っているよと、自分のことと置き換えて、同じような目線で参加者にお伝えなっており、説得力があったんじゃないかと思っております。八幡市の二十歳のつどいでは、派手なこともしないし、大体形も決まってきたわけですが、中身が違ってきていると感じました。</p> <p>もう一つ感じたこととして、議員さん等もたくさんいらっしやって、ご紹介の後にまとめて拍手してください、と段取りしていましたが、何人かは初めから拍手していますよね。こういうのも面白さなんですけど、それ以上に、議員さんが「おめでとう」と言った時に対して、特に実行委員が「ありがとう」と言ってるわけですよ。今までなかったことかなと思</p>



ます。自然発生的に、しかも大きな声でそう言っていたので、非常にほのぼのとした雰囲気を感じました。

ぜひこういう機会を広い意味での社会教育等にできるだけつなげていただいて、これからも育てていただけるようにしていただければと思います。

[ 高橋 課長 ]

2部の参加者集計は行っておりませんので正確な数字は不明ですが、小ホールで立席の場合ですと400人程度は入れるかと思しますので、ホールの外におられた方を含めて、それ以上の方はいたのかなと思います。

狩野委員からお話しいただきました幼稚園の先生へのお声がけにつきましては、子育て支援課と可能かどうか含めて、来年度に向けて検討させていただきます。

[ 教育 長 ]

今回矢田総括園長と牧瀬館長が、受付をしてくれていましたが、そこで結構盛り上がっていました。幼稚園・保育園の先生方も、これはいい機会だなと私もその様子を見て思っていました。卒園生と普段なかなか会うことはないと思いますし、そういう機会があることが、園長がいいのか担任がいいのか等の問題はありますが、教員等にとっても、関わった子どもたちがこんな風に成長してくれているんだと、実感できる場としての二十歳のつどいのあり方は大事だなと感じました。私から二十歳のつどいに出務してもらった職員や校長先生にメールを送っているんですけど、私たちの業務はその時その時ではなかなか評価が定まらないんですけど、大人になった子どもたちを見たときに、やっぱり生きてるな、やったことが正しかったな、頑張ってたなという思いがあるので、それはやっぱり今の教師の働き方改革の問題じゃないですけど、「働きがい」に繋がってくるのではないかなと思います。それが直接例えば離職率の低下につながるかどうかわかりませんが、やっぱりそういう思いを持ちながら、子どもに関わる仕事はしてほしいなと思っているので、どんな形でできるかは様々な問題もあるかと思いますが、検討していきたいなと思います。

[ 狩野 委員 ]

二十歳になった方も自分の過去を思い出して成長を感じる機会になっているのではないかと思います。当時あんなことしたなあ、こんなことしたなあ等、たくさん言ってくれていたの、自分の育ちと自分に関わってくれた人ということで、周りの人と一緒に社会の中で育つ喜びみたいなものを、この人たちの言葉から、感じてくれているんだなあと思いました。

[ 教育 長 ]

他にご質問等はございませんか。

ないようですので、これにて報告事項を終結いたします。

### 3. 議 題（協議事項）

[ 教育 長 ]

次に、3. 議題に入らせていただきます。

本日、案件はございませんが、委員の皆様からご意見・ご質問等、何かありますでしょうか。

[ 佐野 委員 ]

1月7日の京都新聞に八幡市の小学校の防災教育の取組が掲載されていました。川中教育長が教育部次長だった時代から続いているということに驚きました。

八幡市は津波や大きな土砂崩れ等の災害はありませんが、水害は発生する可能性が高い災害なので、こういう防災教育を続けておられて、八幡市在住の方が小学校を回って授業をされているということで、ぜひ小学校だけでなく、いろんなところで広めていただけたらと思います。

また、小学校、中学校等、学校訪問で回らせていただいておりますが、いつも思うのは、小学校の先生の靴問題です。今日の有都こども園では、子ども達が何かあったときにすぐに逃げられるように、別に意味もありますが、上靴を履いている。保育園で上靴を履いているところはあまり聞きませんが、園長先生はその有効性を仰っておられました。

それも含めて防災教育で学校の先生が授業の中で靴をきちんと履く、ということに合わせて、八幡市の防災教育をもう一度見直してほしいなと思いました。

[ 教育 長 ]

防災教育についてはいろんな学校で取り組んでいただいております。中学校でも総合的な教育の時間でいろいろ考えて取り組んでいただいているかなと思います。

[ 渡邊 次長 ]

1.17や3.11など、そういったタイミングで道徳や総合的な学習の時間を使って取り組んでいることが多いです。



[ 教育長 ]	今年も取り組んでいただいています、学校教育課の担当の方から感想等あればお願いします。
[ 市村主幹 ]	<p>今年度は今のところ有都小学校と橋本小学校、中央小学校にて新聞記事で取り上げられている中村さんにご協力をいただいて防災授業に取り組んでいます。</p> <p>授業の内容としましては、最初に自分の地域でこんな水害があったということをクイズ形式にて子どもたちの興味関心を引き出し、地域のハザードマップも見せながら、水害を防ぐための八幡排水機場や橋本樋門といった施設の紹介等を行っています。最終的には、実際に災害が起きそうな時に、自分がどのように行動するのか、マイタイムラインづくりに取り組み、3日前から事前に天気予報をチェックするとか、防災グッズを用意しておくとか、家族と話し合っておくとか、いくつか項目がありますが、自分だったらどうするのかということの時系列で順番に整理をして、みんなで交流して、防災意識を高めるというような内容の授業となっております。</p> <p>有都小学校と3月に行う八幡小学校の二つの学校につきましては、実際に八幡排水機場にも見学に行きまして、中がどんな様子で、どのように動かしているのか、実際に見て学ぶというような形で、現在小学校4年生を対象に取り組んでいます。</p>
[ 教育長 ]	<p>様々な形で市民と一緒に学校現場で取り組むことが大事だと思っています。市民の方は、想いはすごくあるんだけど、具体的にそれを子どもに伝えることができるか、というところではない場合があります。教員はどうしたら子どもに伝わるか、どうしたら子どもが興味を持つとか、プロであり、そのノウハウは持っていますので、そこがうまく合わさると良い授業ができて、続けていくことができるのかなと思います。</p> <p>逆にどちらかの想いが強すぎるとなかなか上手くいかないということも出てくるかと思えます。その辺りの兼ね合いはこれから非常に難しくなってくるのではないかと思います。学校が当然地域に開かれていることは大事ですが、学校は学校でももちろんしなければならない教育もありますし、そこでうまく子どもたちも引き込みながら上手く使っていくためには何か仕掛けが必要とこの間感じています。そういうお互いのノウハウがうまく合致した時にいいものが生まれ、子どもたちにもずっと入っていくのかなと思います。</p>
[ 狩野委員 ]	<p>1月に入ってから図書館に何度か足を運んでいます、橋本小学校のPOPが貼ってありました。図書館の方に伺うと、12月は1・3・5年生で、現在は2・4・6年生が作成したものを貼っているとのことでした。</p> <p>橋本小学校は読書活動に関する研究指定をもらって、熱心に取り組んでいただいているなと思いますし、また、別のコーナーでは男山中学校の生徒が家庭科の授業で作成した絵本が展示してあり、小中学校においてこのように図書館とタイアップをして、いろいろ進めていただいていることを嬉しく思います。そういう取組を行うことで市民も足を運ばれますし、いいことだなと思っています。</p> <p>小学校の1年生を見ている中で、乳幼児期からの絵本がどれだけ子どもの教育に影響してくるのかということをつぶさに見ています。図書館として、今後は乳幼児教育にどのような形で入っていこうと考えておられるのか、お聞かせいただけたらと思います。</p>
[ 小坂館長 ]	<p>狩野委員が仰っていただいているように、乳幼児期、赤ちゃんが生まれてから、子育てのスタート時点からの絵本の読み聞かせが大切だと考えています。第4次八幡市子どもの読書活動推進計画に基づき、各施設の読書環境整備の課題解決に向け、市内公立幼稚園、保育園、こども園の7園に対し、各園の絵本コーナーに設置いただく絵本を市立図書館の蔵書から司書が選定し、絵本支援セットという形で定期的にお届けする取組を1月から試行的にスタートしています。</p> <p>現在のところ7園中4園から申込をいただいております、さくら幼稚園、わかたけ保育園、南ヶ丘第2保育園の3園につきましては、すでに1回目の貸出を始めています。残りの1園、橋本幼稚園につきましては、園にこれからお伺いして、先生への聞き取りと絵本コーナーの様子を司書と見させていただいた上で、どういった絵本を貸出すればよいかを検討する予定です。1ヶ月ごとに上限30冊で貸出を行っていきたいと考えておりました、という形で</p>



持っていか、各園の想いと図書館司書の想いが合致するような形で運営できればと考えています。

初めての取組となりますことから、運用につきましては、これから現場の実情や要望等を聞きながら、できる形で実施していきたいと考えています。

また、現在図書館にて4歳からおはなし会の取組を行っていますが、4月からは0歳を対象を拡大し、子育て中のお母さんたちも一緒に絵本の読み聞かせや手遊びをしてもらう取組を月1回程度実施できるように検討を行っているところです。

[ 狩野委員 ]

0歳からおはなし会に参加できるということは子育て支援の一環になると思いますし、各園には図書館から絵本を運んでくださるということで園側にとっては大変ありがたい取組だと思います。各園には絵本の蔵書量は結構あると思いますが、どうしたら子どもたちに興味を持ってもらえるかという部分について、足を運んでいただいてアドバイスをしてもらい、より豊かな図書館教育を進めていただければと思います。

[ 橋本委員 ]

大きな話になってしまいますが、学校だけでは教育はできなくなっているなど感じています。当たり前のことではありますが、いろんな人に加わっていただかないと子どもは育たないと思います。防災教育については佐野委員が仰られた通りでありますし、過日、八幡市子ども会議委員による市への提言を、しかも議場で行うということで、どのような形でされるのか楽しみにしながら参加させていただきました。

小中学生が全校から集まり、知り合い同士のグループではなく、全体の学校でグループを結成している。そして子どもたちで自主的な運営をする。もちろん立命館大学の稲葉先生のご指導、あるいは学生さんのご指導もありますが、かなり時間をかけ、現地視察も行いながら、みんなでいろいろ意見の打ち合わせを行い、市への提言へと組み上げていっている。これは探求的な学びとして学校の中で行っているものを、社会版のような形で行っている。単なる学校の中での発表と違って、市に対し、場所も議場で実施すると。議員も熱心に聞いていただいて、政治的なニュアンスを十分持ちつつ確かな質問をして、しかもやりとりは台本があるんだろうなと思いつつ聞いていたんですけど、実際、やりとりを見るとこれは即興だと。子どもたちは大丈夫かなと思いつつ見送っていましたが、一生懸命答えていました。すぐに答えられない質問には相談タイムがありましたが、これも運営上面白いなと思いつつながら、いろんな意味で本当に中身がある、素直な提案になっていました。そのやり方、形も含めて感動させていただきました。

これはまさにシティズンシップ教育です。八幡市は一番にシティズンシップ教育を始めたのではないかと記憶しています。かなり長く、学会の研究発表にも出ていますので、八幡市としては地についた動きであり、それがこういう形で繋がっていると感じました。

学校で行われるシティズンシップ教育においては、単なる提案にとどまり政治に踏み込まない、つまり外に対する自分たちの活動行動に結びつかないということで、学校での言葉だけの、理論的なまとめだけの報告、こういうところにとどまりがちだということが欠点だと思っています。今回の動きなどは実際に動いてそれが具体的に議員にも提示、これからもこう動いていきたいというような、いわゆるリテラシーでいうと政治的リテラシーを学ぶ場になっています。これは本当にすごいなと思います。自分たちが動く、学校の中での言葉だけの遊び事ではなく、社会への行動指針として訴えられる、それに繋がるということで、大変興味深く評価しています。

ぜひ学校においても工夫されて、商品提案ではありませんけれども、議員だけではなく相手も変えながら、社会に広く子どもたちが活躍できるように、いろんな方にご指導をいただきながら学べる場ができればいいなと思います。八幡市としては学校教育にとどまらず、社会教育の役割が非常に大きいと私は思っておりますので、ぜひそのあたりを進めていただければいいなと思います。

[ 狩野委員 ]

子ども会議での子どもたちの発表は、やわらかい頭で、また発想でたくさん考え、しっかりと自分たちのこととして発表されており、感動させていただきました。自分自身もいい学びの機会をいただいたと思っています。



<p>[市村主幹]</p>	<p>実際に発表した子どもたちにとってどんな成果があったのか、そこに結びつく経過等も含めて、教えていただけたらと思います。</p> <p>子ども会議は全部で9回ありまして、8回目の子ども会議が、先日議場で行われた本番、市への提言となっています。</p> <p>提言に向け、様々な場所に出かけ、今まで出会ったことのない大人へのインタビュー等の活動を行いました。また、それぞれの子ども会議の最後に、班ごとにその日の取組を報告するまとめの会を行っています。インタビュー活動や子どもたちが取組を自分なりの言葉で全体に報告するといった活動を行ったことで、その成果として、稲葉教授もいい意味で裏切られたというお話がありましたが、提言時の議場での活発な質疑応答につながったのかなと感じております。こちらとしてはうまく答えられない可能性があるかと思い、対策等も考えながら心配していましたが、そういった経験を経ていたことで、その場で考え、答えられる人から手を挙げ、自分の言葉で何とか返そうという、そういった主体的な姿勢につながり、今回の子ども会議を通じて身についた、成長した部分なのではないかと感じております。</p>
<p>[教育長]</p>	<p>各委員から防災教育、図書館行政、子ども会議のお話をいただきましたが、市の事務局はきめ細かく対応してくれていますし、その仕事の対象者に対してどういう効果があるのか、といった部分をしっかり考えてやってくれているので、ありがたく思っています。</p> <p>子ども会議の質疑応答に関しては、子どもが自分で答えられなかった場合に傷つかないか、シナリオを作っておいた方がいいのかなど、非常に悩みました。しかしやはりそれをしてしまうとあまり意味がないものになってしまうのではないかと、せっかく議場で発表しますので、リアルな民主主義の体験ではないですけど、そこはもう小細工なしで行わせていただきました。当然、準備はきめ細かく、当日の対応も含め、担当は頑張ってくれましたので、いい取組になったのではないかと考えています。</p> <p>ただ、一点、本市の教育行政として弱いなと思っているのは、やはり広報ではないかと思っています。学校も含め、たくさんいい取組を行ってくれていると思っていますが、それがなかなか知られていない。これは大きな私の課題とっておりますので、委員の皆さんのお力を借りながら、いろんなところで言い続けなければならないなと思っているところでございます。</p>
<p>[八頭司委員]</p>	<p>今回の子ども会議には高校生の息子がお世話になりました。すごくいい顔をして帰ってきました。これまで8回会議に行っていますが、遠いので嫌々行く日もありました。でも、高校生の息子は小学生すごいなって話していますし、提言の時は、議員や市長、教育長が一生懸命聞いてくれることに、高校生ながら感動していました。こういった経験は家庭や学校ではなかなか味わうことができないことですので、すごく育ててもらっているなと感謝しています。三人の息子はみんな子ども会議でお世話になりました。これまでから保護者として提言を見てきましたが、時代とともに年々進化しているなと感動しました。</p>
<p>[教育長]</p>	<p>これにて議題を終結いたします。</p>
<p>[教育長]</p>	<p><b>4. その他</b></p>
<p>[教育長]</p>	<p>次に、4. その他に入らせていただきます。</p>
<p>[教育長]</p>	<p>本日の、「園・学校訪問について」、ご意見はございますでしょうか。</p>
<p>[狩野委員]</p>	<p>有都こども園では本当に豊かな保育をされているなと思います。幼小接続の研究に取り組んでいることで、さらに保育が活性化していると園長先生が自信を持ってお話されてきました。私自身の学びの中で、質の高い幼児教育が小学校の教育の質に大きく影響してきているなと思っていますので、ぜひ有都こども園の取組を広く発信するとともに、遊びとは一体何か、遊びの中の学びとは何か、といったことを小学校以降の先生方に知っていただく機会が必要ではないかと思います。次期学習指導要領でも、自分の人生をみずから舵取りする力とありますが、園の様子を見ると、0歳児から自分のやりたいことをしているし、友達と一緒にまとまって同じ遊びをしているというような姿も見られ、これを1年1年積み重ねていてくれています。子どもが自分のやりたいことをしながら人と力を合わせることの喜びを味わってくれているのではないかとつくづく感じました。その力をさらに小学校以降で育んで</p>



いただけるように、園の質の向上とともに、小学校の理解を求めていくような取組にさらにつながればと思っています。

また、園長先生が最近、アルバイトの先生がお互いに本を借り合って、学び合ってくれていると話していました。アルバイトの先生は学びの機会がなかなかないということが、私が現場にいた時からの大きな課題です。園の教育は一丸とならなければ高まっていきませんし、ややもすると不適切な保育になってしまつては大変です。そんなことが起こらないためにも、アルバイトの先生も含めた職員全体の研修が必要と考えていますが、担当課としてはその必要性についてはどう捉えられているのか教えてください。

[矢田総括園長]

市としても同じ想いです。時間額会計年度任用職員がたくさんになる中、八幡市の保育全体を上げていこうと思うと、時間額の先生の力はかなり大きなものになってきています。これまでも研修への参加は少しずつ広げていっておりますので、今後もその機会を持てるように取り組んでいきたいと考えています。

[狩野委員]

予算も必要なことですので、なかなかスムーズにいかない部分もあるかもしれませんが、仰ったように、みんなで高まらないと全体の底上げができませんし、しっかりと幼児期の教育を市全体で高めることで、さらに小学校・中学校と子どもたちの意識が、教育が、正のスパイラルというか、大きく大きく膨らんでいってくれたらと思いますので、ぜひどうぞよろしくをお願いします。

男山東中学校では、1年生の教室を覗いた時に、机の天板がまだ昔のままの小さい机でした。3年生の机は大きいものになっていたかと思います。小学校ではGIGAスクール構想で机を大きくされて、それが当たり前とと思っていましたが、今後どのような計画で机の天板の大きさを換えていかれるのか教えてください。

[家村課長]

学校のスクールセットにつきましては、学校で計画をされまして、毎年予算の範囲内で計画的に購入をされています。学校の判断で、必要に応じて順次購入されていくものと認識しています。男山第三中学校につきましては、今年度、校内の樹木の間伐材を天板に加工し、生徒が天板を外して付け替えるという取組を行っております。

[八頭司委員]

有都こども園では一人ひとりを大事にした保育をされていて、子どもたちがゆったりと、落ち着いて遊んでいて癒されました。その後訪れた男山東中学校では、有都こども園で育った子がここにいるのかなと思いつながら、生徒たちがすごく素直で、手を振って歓迎してくれていた感じで、可愛らしいなと思いました。

有都こども園も男山東中学校も、風で屋根が飛んだりしていると話されていました。有都こども園の園長先生は、2年前ぐらいから言い続けたいと直してもらえないと仰っていたので、なるべく早く修繕していただきたいと思いました。

[教育長]

これも大きな課題で、施設の老朽化も含めて本当に考えていかないと、コストばかりかかっていきますし、その修繕にお金をかけるのは今後はどうなのかという部分もありますので、考えていかなければならない課題と考えています。

[佐野委員]

有都こども園では、有都小学校との交流がすごくうまくいっているなと感じました。小学校の先生はこども園に行く、こども園の先生は小学校に行くという部分は、これまでの5年生交流であればそこだけを行って帰ってくるというところが、プラスαのことができるようになって、もっと違うところにも目を向けられるようになったとのことでした。そうするとそれぞれがお互いに何をしてあげたらいいのか、自分たちが出向いているんな情報収集をしてできることを考えるとといった形で、お互いに相乗効果が生まれていて感心しました。

心配な点としては、支援が必要な子どもたちがたくさん公立園に入ってくるというところで、その子どもたちが増えることによって先生の数も増えていく、一つの教室に先生が4人入っておられて、やっぱり必要なんだなというところを考えさせられました。園長先生は子どもたちのことをすごくよく考えられていて、支援が必要な子どもでも、この子が何を求めているのか、園としてどこまでしたらいいのかといったところを模索しながら向き合ってくれているので、できるだけ子育て支援課としてもサポートしていただけたらと思います。また、カウンセラーの先生が来られる日数が少なく、相談したいこともたくさんあると思いますので、



日数を増やしていただくようなご努力をお願いしたいと思います。

男山東中学校に関しては、生徒がみな明るいことが印象的で、校内を回った際、先日子ども会議で発表していた生徒がいたので話をしましたが、すごく明るく返答してくれ、やはりそういった場で発表する子は堂々としているなど感じました。また、昨年11月の青少年の主張大会で発表された生徒も同様にしっかりしていたというのと、その生徒が次は綴喜の大会で発表されると聞きましたので、それも教育委員会として応援してもらえたらと思います。

それに伴って、先日の都道府県対抗駅伝大会で、男山第三中学校の陸上部の子たちがメンバー登録されていたり、男山東中学校の子も活躍してくれていたり、八幡市の中学校の子たちがいっぱいいろいろなことで活躍してくれていますので、見逃さないように、さきほど広報活動のお話もありましたが、そういうところもたくさん宣伝していただいて、八幡市の魅力発信をしていただけたらと思います。

[橋本委員]

公立幼稚園・保育園・こども園が特別支援教育を要する子ども達の受け皿になると、これは減ることはなく、今後はますます増えていくことになるかと思っています。こういう環境下において、現場はお困りになっているんだろうなと思い、有都こども園ではいろいろ質問をさせていただきました。保護者も含めどう支援していくかという点では、やはりカウンセラー等の専門家のアドバイスを含めながら、子どもにすくすく育ていただくためには、早くアプローチする必要があります。これは就学前教育の位置付けと同じですが、特にいろいろな課題をお持ちになっている場合は、それが後に効いてくるかと思っています。難しい課題ではありますが、いろいろご支援を今後も考えていただき、充実していただけたらと思います。

もう一つ、以前からも申しましたが、幼小の連携の中で大事になってくるのはカリキュラムの整備であり、学習指導要領においても幼小を接続させる形になされてきました。それが近年、特に有都こども園を見て感じることは、いち早くカリキュラム化をし、中身が質的にどんどん改善されてきています。小学校の学習指導要領の言葉が、そのまま幼稚園でも使われる量が多くなってきている、言葉の共通化ということ強く感じました。これは園長先生、園だけが使っているわけではなく、先生方がおそらくそういう表現を様々な研修等の場で使われ、共通言語として使われるようになってきたのではないかと思います。これがやはり接続の一番大きな概念の共通化ということで、大事ななと感じました。

ドキュメンテーション等で報告されているそういう説明の本の中においても、そういうものが散見されます。小学校への敷居が低くなってきたというようなことも含め、言葉とともに行き来も、交流も進んでいるなど、質的に相当高まってきているなということを感じました。しかし、一般の方には先ほどからの話にもありますが、広報が下手だと感じます。もっともっと魅力を、取組の中身、実績等を広く市民に訴えていただければと思います。

男山東中学校に関しましては、エレベーター整備の進捗が少し遅れていて、年度末いっぱいまでかかるとのことでした。できるだけ余裕をもって終われるように取り組んでいただければと思います。

[教育長]

本日有都こども園に伺って、驚いたことが二つありました。一つは、0・1歳児の6人が一緒におままごとをしていました。それがまたすごく良い感じでした。もちろん周りのこと等は気にしていませんが、何か一緒にやっているというその感覚が伝わってきました。0・1歳児があんなふうにとまって何かやっている、それを温かく見ている保育士の姿が本当に素敵でした。

もう一つは、この寒さでメダカの池が凍っていました。当然それを子どもが見つけたら大喜びで、割って遊びますよね。あれが実は小学校・中学校の理科に繋がっていくし、中学校の理科における三態変化なんかはまさに関係してきます。ただ単に氷というものではなく、やはり触ったり、滑ったり、融けて手が濡れるとか、あの感覚を十分味わっている子どもたちは、理科の授業にもくいついてこれると思います。そういった豊かな体験が本当に学びに繋がっていく。先ほどから各委員にお話しいただいた中のことですが、そういった意味で遊びは本当に大事だと思いますし、そういった体験をさせてくれている就学前施設は本当にす



ごいなと思います。また、有都こども園の場合は、隣に芝生の広場があって、2歳児が芝生で走り回っていましたが、見学していた3分から5分ぐらいの間にも3人ぐらいが前のめりにこけていました。今の発達段階からするとそうなるかと思いますが、今は小学校6年生でも足腰が使いきれない、十分発達できていない児童が多くなっています。歩き方や走り方はすごく大事で、2歳であればこけても仕方ありませんが、走る中で初めて上手に走れてくるし、走り込んでいくということがすごく大事じゃないかと思います。芝生であればこけても痛くないし、そういう経験をさせられる本市の園はすごいなと改めて思ったところです。

男山東中学校は、八幡の子らしいと言いますか、愛想がいい、ニコニコした生徒が多いのが印象的でした。授業中に手を振ると、昔であれば先生は怒っていたと思いますが、今は先生は怒らず、先生自身もニコニコしながら見守ってくれていました。この感覚が心地よい、それを大事にしてくれていることが、おそらく今子どもたちが落ち着いて学校で頑張れているところかなと思いました。また、昨年から開設した校内スペシャルサポートルームは、5人の先生が担当してくれています。スペシャルサポートルームのニーズとしては、単なる居場所だけではなく、中学校では学習に対する保障という部分をかなり考えてくれており、個々の学習をどう組み立てていくか、不登校の子でもできる限り学習を保障していくということを考えてくれています。これからますます複雑多様化していく中で、学校や園において、子どものことを真剣に考えてくれているなど、非常にありがたく思っています。

他によろしいでしょうか。

ないようでありますので、4. その他を終結いたします。

#### 5. 配付資料

[ 教育長 ] 次に5. 配付資料について、事務局より説明願います。こども未来課。

[ 高橋課長 ] お手元に12月分の議事録の写し及び令和7年度の卒業式・卒園式、令和8年度の入学式・入園式の出席者の案をお届けしております。

[ 教育長 ] 次に、次回定例教育委員会の日程について、事務局より説明願います。こども未来課。

[ 高橋課長 ] 次回定例教育委員会は2月18日水曜日午後3時から、庁舎5階会議室5にて行います。園・学校等訪問先につきましては、午前10時にやわたこども園、11時30分に男山第三中学校となっております。

[ 教育長 ] 以上をもちまして、12月度の定例教育委員会を閉会させていただきます。

## 令和8年八幡市二十歳のつどいの参加状況について

1. 日時 令和8年1月12日(月・祝)  
第一部(式典) :10時30分開式  
第二部(交流会):11時30分～
2. 会場 八幡市文化センター大ホール  
第二部は小ホール
3. 対象 対象者(平成17年4月2日から平成18年4月1日生)  
対象者数 724人  
当日参加数 521人  
(うち市外参加者 20人、出席率 72.0%)
4. その他 松花堂庭園無料入園者数  
新二十歳 34人・同伴者 52人 計 86人